

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	西洋建築史小委員会	主 査 名：星 和彦 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：石田潤一郎 主 査 名：
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 若手研究者の育成・強化策、ならびに西洋建築史研究全般の展開について議論、検討、実行する。 2. 国際的な研究動向をふまえ、新しい研究活動、研究領域の拡大、隣接研究分野との学際協力の可能性、および日本における西洋建築史研究のありかたについて議論、研究する。 3. 学術的国際交流促進の方法について議論・検討し、関係する情報の流通・公開の促進を図り、小委員会としての役割を検討する。 4. 『西洋建築史図集』の改訂への基礎作業と、その一環として、「デジタルアーカイブ」と「西洋建築史用語集」の作成の必要性と可能性について議論・検討し、試行する。 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：星和彦 (前橋工科大学) 幹事：伊藤喜彦 (東海大学)、戸田穰 (金沢工業大学) 委員：伊藤大介 (東海大学)、稲川 直樹 (中部大学)、海老澤模奈人 (東京工芸大学)、大橋竜太 (東京家政学院大学)、加嶋章博 (摂南大学)、加藤耕一 (東京大学)、太記祐一 (福岡大学)、中島智章 (工学院大学)、西田雅嗣 (京都工芸繊維大学)、堀賀貴 (九州大学)、横手義洋 (東京電機 大学)、吉武隆一 (熊本大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	『西洋建築史図集』WG 現行の『西洋建築史図集』の問題点の洗い出しは終了し、改訂『西洋建築史図集』の構成・内容の検討、及び執筆形態・写真等の取り扱い、執筆予定者の検討も実施した。執筆者主体の WG への改編を検討する。『西洋建築史用語集』の可能性についても平行して検討していく。	
2017 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/rekishi/s5

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	1. 研究協議会「フィールドとしての「西洋」を問うー建築史・都市史研究が拓く未来」 (資料) 同 上 参加者数 83 名
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	建築学会大会で中国支部と共催し、研究協議会として、シンポジウム「フィールドとしての『西洋』を問うー建築史・都市史研究が拓く未来」を開催した。また同タイトルの資料集を編集した (著者 42 名、74 頁)。したがって、(1) ならびに (2) に関しては、建築史から都市史まで、広範な分野の研究者の参加を得て、その目的に沿った活動ができた。なお、小委員会独自の昨年度実施した研究会は、次年度 (2018 年度) 実施を予定している。
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会は、メール審議を実施しているが、1 度の開催であった。上記の目標を考えると、予算、時間の面での制約はあるものの、活性化は今後の課題といえる。とくに、来年度は建築学会大会で研究協議会を主催するので、気をつけて取り組みたい。 2. 西洋建築史図集の改訂作業が滞っていることは、反省すべきと考えている。